

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名: 地域連携・交通部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 林 伸行(尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1)センターの事業の実施に関する業務 2)センターの利用許可等に関する業務 3)センターの利用に係る料金の収受に関する業務 4)センター施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5)センターの管理運営上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			熊野古道やその周辺地域に関する情報発信や交流の拠点として、自然、歴史、文化等に係る企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント(知られざる熊野探訪ツアー、尾鷲ヒノキで様々な物をつくる体験教室、東紀州の四季を味わう料理教室等)を実施している。 また、定期点検や修繕等により、施設や設備等を良好な状態に保つとともに、省エネ、省資源等環境負荷低減にも取り組むなど、適正な維持管理を行っている。
2 施設の利用状況	B	B			新型コロナウイルス感染症の影響等により、来場者数は、111,335人(前年度比13.2%増)にとどまり、目標値(115,000人)を下回った。一方、施設稼働率は69.9%(前年度比1.4%増)となり、目標値(50.0%)を上回った。 また、企画展や体験学習、講座・講演会等を開催するとともに、貸館により地域の団体等に活動の場を提供している。さらに県内の小中学校を中心に体験教育旅行(53校3,051人)を受け入れ、世界遺産学習等を実施している。
3 成果目標及びその実績	B	B			成果目標の8項目のうち、6項目は目標値を上回った。「来場者数」は目標値を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症が収束しない中、感染拡大防止対策に努めながら予定していた事業をおおむね実施した結果、目標達成率96.8%となった。 成果実績を昨年度と比較すると、目標達成項目は7項目から6項目に減少したが、来場者数が昨年度98,345人から111,335人(13.2%増)と、大幅に改善したことは評価できる。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。  
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。  
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

<p>総括的な評価</p>	<p>1 成果目標に対する達成度          成果目標の8項目のうち、6項目は目標値を達成したものの、「来場者数」「地域の歴史・文化に関する情報収集及び、集積の成果発信」のうち、「東紀州地域外での開催」は目標値を下回った。</p> <p>2 残されている課題          社会見学や体験学習等の機会も生かしながら、地域内外においてセンターの存在や活動内容等のPRをして認知度をさらに高めることなどにより、センターへの来場をより一層促すことや、引き続き、魅力的な事業の企画や各事業の一層のPRに努める必要がある。          また、開館から16年余りが経過し、展示内容の見直し時期に来ているため、常設展示のリニューアルを検討するなど、来場者数の増加に向けて取組を進める必要がある。          目標値を下回った東紀州地域外での情報収集及び、集積の成果発信については、より一層積極的に取り組む必要がある。</p> <p>3 その他          (1) 利用者ニーズの把握及び事業等への反映          アンケート等により利用者ニーズの把握に努め、運営に生かす仕組みが機能していることから、利用者の満足度は高い数値(98.9%)を維持している。また、関係機関や地域団体と連携することで、企画展や体験学習等の取組をより魅力的なものにしている。          (2) 施設の適正な維持管理の実施          日々の巡回や定期点検を行い、良好な維持管理に努めるとともに、省エネルギー対策にも継続して取り組んでいる。          (3) 危機管理          新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に徹底して取り組んでいる。また、消防署と連携して自主防災訓練等を行うことで、災害等緊急時における救急救命方法や消火設備の操作方法など、職員の対応能力向上を図っており、適切な危機管理を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により2項目の目標値を達成できず、上記2の課題も残されているものの、熊野古道やその周辺地域の魅力を広く発信するとともに、体験教育旅行の受入れ、地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会等を実施している。          また、地域の魅力を新たに掘り起こし様々な形で紹介したり、交流拡大につなげるなど地域の振興に寄与しているほか、小中学校への出前授業等を企画するなど課題の改善に取り組んでおり、三重県立熊野古道センターの管理者として適切な運営を行い、実績を残していると評価できる。</p>
---------------	--

## <指定管理者の評価・報告書(令和4年度分)>

指定管理者の名称:特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク

### 1 管理業務の実施状況及び利用状況

#### (1)管理業務の実施状況

##### ①熊野古道センター事業の実施に関する業務

###### 1. 情報収集・集積発信事業

熊野古道やその周辺地域、及び東紀州5市町(紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町)の自然、歴史、民俗・文化に関する資料を収集するとともに、江戸時代に記された古文書の解読、翻刻を通して、熊野古道伊勢路を歩いた旅人や地域住民の心情及びふるまいについての情報収集に努めた。

###### 2. 交流事業

###### ア) 交流イベント

5月にゴールデンウィークドリームフェスタと題して、クライミング体験、人形劇、ものづくり体験、自然観察会を実施した。11月には「熊野古道センターをきれいにしている仲間たちの作品・パネル展」「おわせ海・山ツアーウォーク」、2月には開館記念日を祝して熊野古道音楽祭「新日本フィルホルン奏者田中雅樹氏と共に」を開催した。多くの人々が交流する事業を72回開催した。

###### イ) 体験学習、講座・講演会

体験学習について、県内外の小中高生の修学旅行や校外学習を受け入れる体験教育旅行、毎週日曜日に開催している「日曜わくわくものづくり体験教室」や「料理教室」、「熊野古道センター自然学校」など計127回開催し、2,574名の参加者を集めた。講座・講演会については「山歩き講座」「新熊野学講座」「古文書からひも解く地域の暮らし」など計36回開催し、695名の参加者を集めた。

###### 3. 情報発信事業

###### ア) 企画展

「わが郷土のお祭り」では「飛鳥神社例大祭」、「写真で懐古・故郷の暮らしと風景」では熊野市を取り上げた。熊野古道を地学という視点から捉えた「熊野古道大地のなりたち」、熊野市のアーティスト作品展を開催した。企画展6回、特別展示室企画展5回を開催し、計55,971名の来場者を集めた。

###### イ) 情報誌等の発行

熊野古道センター主催事業の概要を盛り込んだ「三重県立熊野古道センターからのてがみ」を4回発行した。熊野古道伊勢路を紹介する小冊子第3弾として「くまのみちを歩く・三～西国第一の難所八鬼山越え～」を刊行した。

###### ウ) ポスター・チラシ等によるPR

企画展や交流事業を広報するためのポスターやチラシを28点作成し、諸団体・関係機関に配布し、周知に努めた。

###### エ) ホームページ等による情報発信

熊野古道伊勢路の最新情報や主催事業を告知するため、ホームページやLINE、Instagramを通じて周知に努めた。

###### オ) マスメディアによるPR

地域の新聞社やテレビ局の協力を得て、主催事業などのPRを行った。

##### ②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

###### 1. 設備の維持管理

職員による日常点検及び定期点検を実施し、異常箇所があれば速やかに改善した。  
・館内及びトイレについては、平日は地域の障がい者自立支援施設の通所者による清掃業務、土・日および祝日はシルバー人材による清掃業務により、適正に維持管理した。

###### 2. 設備の修繕

・SOG(高圧受電保護装置)の取替工事(三重県)  
・排水路設置工事(三重県)  
・常設展示地形模型更新(三重県)  
・空調設備機器修繕(計6日)

###### 3. 今後の見通し

・空調機器に関しては経年劣化による不具合が頻発していることから、中・長期的な計画を立てて修繕していくことが必要である。  
・節電及びCO2削減という観点から館内の照明設備を早急にLEDに変更する必要がある。

##### ③県施策への配慮に関する業務

###### 1. 人権尊重のための取組

職員、来館者、関係者などすべてのステークホルダーを大切にすることを徹底する。

###### 2. 男女共同参画社会の実現への取組

職員がその適正に応じて能力を発揮できるよう、男女ともに企画、広報、庶務等様々な業務を経験することとしている。

###### 3. 持続可能な循環型社会の創造に向けた取組

温室効果ガス削減に向けた取組として、ゴミの削減・分別を徹底し、かつ節電のために電気やエアコンの適切な使用を職員一丸となって取り組む。

##### ④情報公開・個人情報保護に関する業務

###### 1. 情報公開に関する業務

三重県立熊野古道センターの管理に関する情報公開実施要領に基づき対処した。令和4年度は開示請求はなかった。

###### 2. 個人情報保護に関する業務

個人情報保護規定に基づき、個人情報を慎重かつ適切に扱った。

##### ⑤その他の業務

該当なし

(2)施設の利用状況		
施設名	利用件数	利用人数
企画展示室	0	0
映像ホール	24	521
会議室	77	161
和室	66	290
体験学習室	41	187
小ホール	77	965
大ホール	167	4,251

## 2 利用料金の収入の実績

施設の利用率に係る収入額は、572,620円で、利用率の減免については、14件ですべて承認した。

## 3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	69,702,000	69,841,000	事業費	6,299,176	6,224,938
利用料金収入	217,810	572,620	管理費	64,320,567	66,990,253
その他の収入	1,260,183	2,389,626	その他の支出	0	0
合計 (a)	71,179,993	72,803,246	合計 (b)	70,619,743	73,215,191
収支差額 (a)-(b)	560,250	△ 411,945	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	34,900
---------	--------

## 4 成果目標とその実績

成果目標及び実績	項目	目標	実績	達成率(%)	
	1 施設稼働率(%)	50	69.9	139.8	
2 来場者数(人)	115,000	111,335	96.8		
3 地域の歴史・文化に関する情報収集及び、集積の成果発信					
1)東紀州地域内での開催(回)	10	11	110.0	(企画展の回数)	
2)東紀州地域外での開催(回)	2	1	50.0		
3)県外での開催(回)	1	2	200.0		
4 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	2	3	150.0		
5 学校連携事業(校)	25	53	212.0	(体験学習、体験教育旅行を含む)	
6 利用者の満足度(%)	95.0	98.9	104.1		
今後の取組方針	<p>※施設稼働率算出式＝利用日数/開館日数×100            (企画展示室、映像ホール、会議室、和室、体験学習室、大ホール、小ホールが利用対象。            内部打ち合わせ、映像ホール定時上映利用を除く)            ※来場者数は、センター以外の会場で実施した事業の参加者を含む。</p> <p>1. 来場者目標に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント参加者及び来館者が少なかった。令和5年度は5類へ移行したことで、イベント参加者数制限の廃止や講演会・コンサートなどの入場者数の再検討を行い、積極的にイベントへの参加を促したい。</p> <p>2. 地域の歴史・文化に関する情報収集及び、集積の成果発信のうち、東紀州地域外での開催については、中勢、北勢地域といった世界遺産登録地外においても積極的に実施したい。</p> <p>3. 学校連携事業については、地域の小中学校への出前授業を積極的に実施したい。世界遺産関連学習をはじめ、自然や歴史、地域の文化といった分野においても実施したいと考える。</p>				

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	基盤となるビジターセンター事業については、職員一人ひとりが積極的に熊野古道を歩き、最新の情報収集につとめ、来館者や電話による問い合わせに十二分に対応できるよう努めた。自主事業については熊野古道伊勢路とその周辺地域の自然・歴史・文化等の情報収集に努め、企画展示や叢書刊行により発信し、さらに、地域住民との交流を図るため、多種多様な交流イベントを開催した。施設管理においては、燃料費や光熱費が高騰する中、職員一人ひとりが省エネについて意識し、一丸となって節電、節約に努めた。設備、機器・器具等について空調設備や電子機器を使用した展示物などが経年劣化により不具合が多発する中、即対応の姿勢でサービス低下を防ぐよう努めた。
2 施設の利用状況	B	B	企画展示、体験教室等を開催するとともに、貸館により地域の団体・機関等に展示会場や楽器演奏会など多様な活動に使用していただいた。大空間を利用できること、また安価で使用できる点が好評で、地域住民の交流の場として定着しつつあり、多くの人に利用していただいた。
3 成果目標及びその実績	B	B	東紀州地域外での情報収集及び、集積の成果発信については、展示の規模や使用会場、利用料金といった面がハードルとなり、目標に至らなかった。今後は、三重県全域に視野を広げ、世界遺産及び熊野古道センターの活動をPRしていきたい。

※評価の項目「1」の評価

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」→ 業務計画を順調に実施している。
- 「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」→ 当初の目標を達成している。
- 「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総合的な評価	<p>1. 成果目標に対する達成度 来場者数、東紀州地域外での情報収集及び、集積の成果発信の2項目については目標値を下回る結果になった。コロナ禍における外出自粛やイベント参加者数の制限により、目標値を下回ったと考えられる。 しかし、魅力ある展示や来館者の興味・関心のあるイベントを展開したことで、3年ぶりに10万人の来場者を得るなど、職員一丸となって取り組んだ成果が出た。</p> <p>2. 残されている課題 東紀州地域外での情報収集及び、集積の成果発信について、展示会場の獲得、使用料金などといった課題があるが、世界遺産及び地域の魅力を発信する機会と捉え、県内様々な場所で情報発信できるよう努めたい。</p> <p>3. 翌年度に取り組むべき成果目標の設定 5か年計画に基づき、引き続き目標値に向かって努力したい。</p> <p>4. その他</p> <p>①施設の平等利用の確保 当施設は入館無料のビジターセンターであり、また、多種多様なイベントを展開しているので、地域内外を含め県内外すべての人々に来館していただけるよう開館している。</p> <p>②施設の維持管理 空調設備、消防設備、自動ドアなど専門業者に委託し保守管理している。館内やトイレの清掃については、自立支援施設の通所者、シルバー人材センターに委託し管理している。その他、施設・設備の日常、定期点検については職員が実施し、管理に万全を期している。</p> <p>③県民ニーズの把握及び事業等への反映 イベント参加者や来館者へのアンケート結果を踏まえ、改善すべき所は即対応し、来館者のニーズに応えるように努力する。クレームや苦情に対しては、真摯に受け止め、速やかに対応している。</p> <p>④県民サービスの向上 県民の視点で、今何を求めているのか、どのような展示やイベントが必要なのか、職員一人ひとりが意識し、質が高く、かつ親しみやすい事業を展開するよう努める。</p> <p>⑤コスト削減の取組 無駄な紙の使用、不要なコピーを減らすよう努力したり、高騰する電気代については、職員一丸となって節電を意識し、無駄なエアコンの使用、無駄な照明を減らすなど徹底した節約・節電に取り組んでいる。</p> <p>⑥危機管理体制の確保 消防署と連携して防災訓練を実施し、消火設備の使用法や救急救命措置を学ぶなど、有事の際の対応能力向上を図り、危機管理を行っている。</p> <p>⑦業務体制の整備 事業を実施する事業課、経理・総務などの業務課、そして図書資料室の業務を行う職員を適正に配置し、かつそれぞれに学芸員や図書館司書といった専門職員を置き、来館者のニーズに応えるよう体制を整えている。</p>
--------	---